

記者発表資料
発表後の使用自由

**沖縄総合事務局道路建設予定地において貴重植物を
確認しましたのでご報告します。**

沖縄総合事務局では、事業を実施する際には、自然環境の保全に細心の注意を払っております。平成15年11月及び12月に実施した道路建設予定地内での調査により、**ナガバアリノトウグサ**と**マネキシングユガヤ**を確認し、今般同定作業が終わりましたのでご報告します。

沖縄総合事務局といたしましては、学識経験者の指導のもと確認された貴重植物の保全対策を実施してまいります。

なお、確認された場所につきましては盗掘の危険性があることから公表を控えさせていただきます。

平成16年1月21日

沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課

お問い合わせ先 沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課

(TEL) 098-866-0091

課長 松浦 利之(内線4211)

課長補佐 玉城 正弘(内線4212)

ナガバアリノトウグサ（ホソバアリノトウグサ）

分 類：アリノトウグサ科

カテゴリー：危急種

形態の特徴：小型の常緑の多年本。茎は直立して分枝し、高さ 10 cm～25 cmになる。葉は対生し、上方のものは時に互生し、披針状長楕円形～披針形、長さ 1～2 cm、両側に 4～5 対の鋸歯があり、表面に圧毛を散生し、鋭頭、円脚、やや無柄。花序は頂生または上部の葉腋から生じ、花は長さ 2 mm、無柄、萼筒は鐘状、裂片は狭三角形、長さ 0.5 mm、花弁は長さ 1 mm。果実は半球形、長さ 13 mm、8 肋がある。

分布域(県外)：中国南部、インド、インドシナ

県内の分布：伊是名島、沖縄島

生育環境：日当たりがよく土壌の少ない草地に生える。

生育状況：伊是名島では、自生地に観光道路が建設されて減少した。沖縄島では名護市と恩納村の各 1ヶ所で 1930年代に記録されているが、近年は全く見つかっておらず、現状は不明。

学術的価値：分布域の北限である。

減少の要因：もともと自生地と個体数が少ない。自生地の開発。遷移の進行。

備考：種子島（馬毛島）には和名が同じで本種とは別種のタネガシマアリノトウグサ（別名ナガバアリノトウグサ、ホソバアリノトウグサ）*H. walkeri* が分布する。

【出典】沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータおきなわ（沖縄県）
1970年に採取された標本記録がある。（琉球大学教育学部教授 立石庸一）



[道路建設予定地において 11月撮影]

マネキシングユガヤ

分 類：カヤツリグサ科

形 徴：湿地にやや希にはえる小型の1年草。全体軟弱で茎は高さ10～20 cm、無毛。葉は長さ7～13 cm、幅2 mm内外、無毛、すべて茎上生で葉鞘に翼はない。花序は1茎に2～3個、頂生及び腋生、長さ1～1.5 cm、分花序の柄は湾曲する。果実は球形、径1.5 cm～2 mm、灰白色、不完全な格子紋と光沢がある。

分 布：本州（関東地方南部以西）、四国、九州、朝鮮半島（南部）

【出典】京都府レッドデータブック



[道路建設予定地において11月撮影]